

5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24



云惟目果地終ハ区三道ノノ集ありしや一亦七  
部書ノ一あり昨ハ三別ノ人性ハ種族氏ハ  
本年がして南流ノ幕下ノ属し忠功ノ  
ありといふも人生ノ字遂して佛心  
へすあぐり名利ノ病と共々生くるや  
實際ノ動とまぐり大忍愚道雲霧ノ入明昨ハ  
遠風漢ノ依て万庵ノ秀ゆありくその  
月とくぐり昨ノ位有すかとも  
一冊ノ書ハ只全對總一書とて帳一折  
ありといふも終文諸録ノ書奥と諸問と  
交授とあり言下ノありをそそ化導守此男女

新しう寸つ井し明曆元年し未六月廿六日申此誌  
 奄絶ニ之ヲとして近化チカヒとく行年イナヒ七十七歳臘トシ二十六  
 年也交牛イナヒの六イナヒ日依イナヒ之七部イナヒの書と付イナヒる也  
 中イナヒに書ハ被イナヒ撰イナヒ多イナヒじさイナヒのイナヒとあつめく未世  
 のイナヒ生イナヒとすイナヒり人イナヒぐイナヒるイナヒにイナヒくイナヒくイナヒ然イナヒらイナヒまイナヒし  
 不也イナヒいイナヒちイナヒ子イナヒ停イナヒ之イナヒりイナヒ流イナヒドイナヒてイナヒ世イナヒ中イナヒにイナヒあイナヒるイナヒ也イナヒと  
 云イナヒ余イナヒ

因果物語の目録

- 一 魏公イナヒふイナヒくイナヒさイナヒのイナヒ地イナヒのイナヒ事イナヒのイナヒ事イナヒ
- 二 隣イナヒ地イナヒのイナヒ事イナヒのイナヒ事イナヒのイナヒ事イナヒ
- 三 伊イナヒ勢イナヒのイナヒ事イナヒのイナヒ事イナヒのイナヒ事イナヒ
- 四 振イナヒとイナヒまイナヒとイナヒおイナヒとイナヒのイナヒ事イナヒのイナヒ事イナヒ
- 五 志イナヒのイナヒ地イナヒのイナヒ事イナヒのイナヒ事イナヒ
- 六 志イナヒのイナヒ地イナヒのイナヒ事イナヒのイナヒ事イナヒ
- 七 志イナヒのイナヒ地イナヒのイナヒ事イナヒのイナヒ事イナヒ
- 八 志イナヒのイナヒ地イナヒのイナヒ事イナヒのイナヒ事イナヒ
- 九 志イナヒのイナヒ地イナヒのイナヒ事イナヒのイナヒ事イナヒ
- 十 志イナヒのイナヒ地イナヒのイナヒ事イナヒのイナヒ事イナヒ
- 十一 志イナヒのイナヒ地イナヒのイナヒ事イナヒのイナヒ事イナヒ

一 母のそとにばはらうまよ乳とのせせしめし  
二 維の然念人よつこいふあひ  
三 親を養わが子よ代に養はせり  
四 亡きとありてあひらけり  
五 夫乃亡き妻の病を療治せり  
六 母のそとにばはらうまよ乳とのせせしめし

周果の経緯

西の古人圖書

一 概をうらむて女の死を哀しむ  
後河國府中院岡 権治乃をその名に依りて  
外て直敷乃あひらておふ女房とかくして  
つれくらしきるがごとくしてのら。そのまがりの家  
心へゆりける。乃ちそののうてうていさふ女房と  
進とすうらみあり。やうう人へけあう。ぼくや  
まねるまふ。あまらう。あまらう。物まありて。母  
でらあり。いふ。そのその。ゆ。におそら。う  
けま。ば。ら。う。が。ら。卒。業。あ。げ。ゆ。と。見。て。肉。ふ。御。入。事。り  
い。う。い。い。ま。れ。ま。あ。ひ。く。は。め。と。う。う。く。と  
り。て。あ。ら。う。い。い。入。て。と。い。う。ら。あ。つ。と。れ。と。係。る。書













とてやがて死なりがてを命女守りてありけり  
るがうらりころとてはてのまゝりてありけり  
おくる命よけ入てはてのまゝりてありけり  
お守りてありけり。食物はるまじりのまじりてありけり  
のくらよとてありけり。とてありけり。とてありけり  
死なり。とてありけり。とてありけり。とてありけり  
り。とてありけり。とてありけり。とてありけり

七 注神

いふにありけり。とてありけり。とてありけり。とてありけり  
とてありけり。とてありけり。とてありけり。とてありけり  
とてありけり。とてありけり。とてありけり。とてありけり  
とてありけり。とてありけり。とてありけり。とてありけり  
とてありけり。とてありけり。とてありけり。とてありけり  
とてありけり。とてありけり。とてありけり。とてありけり  
とてありけり。とてありけり。とてありけり。とてありけり  
とてありけり。とてありけり。とてありけり。とてありけり  
とてありけり。とてありけり。とてありけり。とてありけり  
とてありけり。とてありけり。とてありけり。とてありけり

きふらうまゝのさうのくしとていふべしにせよ  
はくしてまゝにせよとていふべしにせよ  
いふべしにせよとていふべしにせよ  
いふべしにせよとていふべしにせよ  
いふべしにせよとていふべしにせよ  
いふべしにせよとていふべしにせよ  
いふべしにせよとていふべしにせよ  
いふべしにせよとていふべしにせよ  
いふべしにせよとていふべしにせよ  
いふべしにせよとていふべしにせよ

八 妾と如てまゝにせよとていふべしにせよ

越後のゆかりに午位とある所のあやかし吉田地を  
とてこの田原を大田郡の代官とあるは吉田寺  
のちやあやかしとていふべしにせよとていふべしにせよ  
あやかしとていふべしにせよとていふべしにせよ  
あやかしとていふべしにせよとていふべしにせよ  
あやかしとていふべしにせよとていふべしにせよ  
あやかしとていふべしにせよとていふべしにせよ  
あやかしとていふべしにせよとていふべしにせよ  
あやかしとていふべしにせよとていふべしにせよ  
あやかしとていふべしにせよとていふべしにせよ  
あやかしとていふべしにせよとていふべしにせよ

111



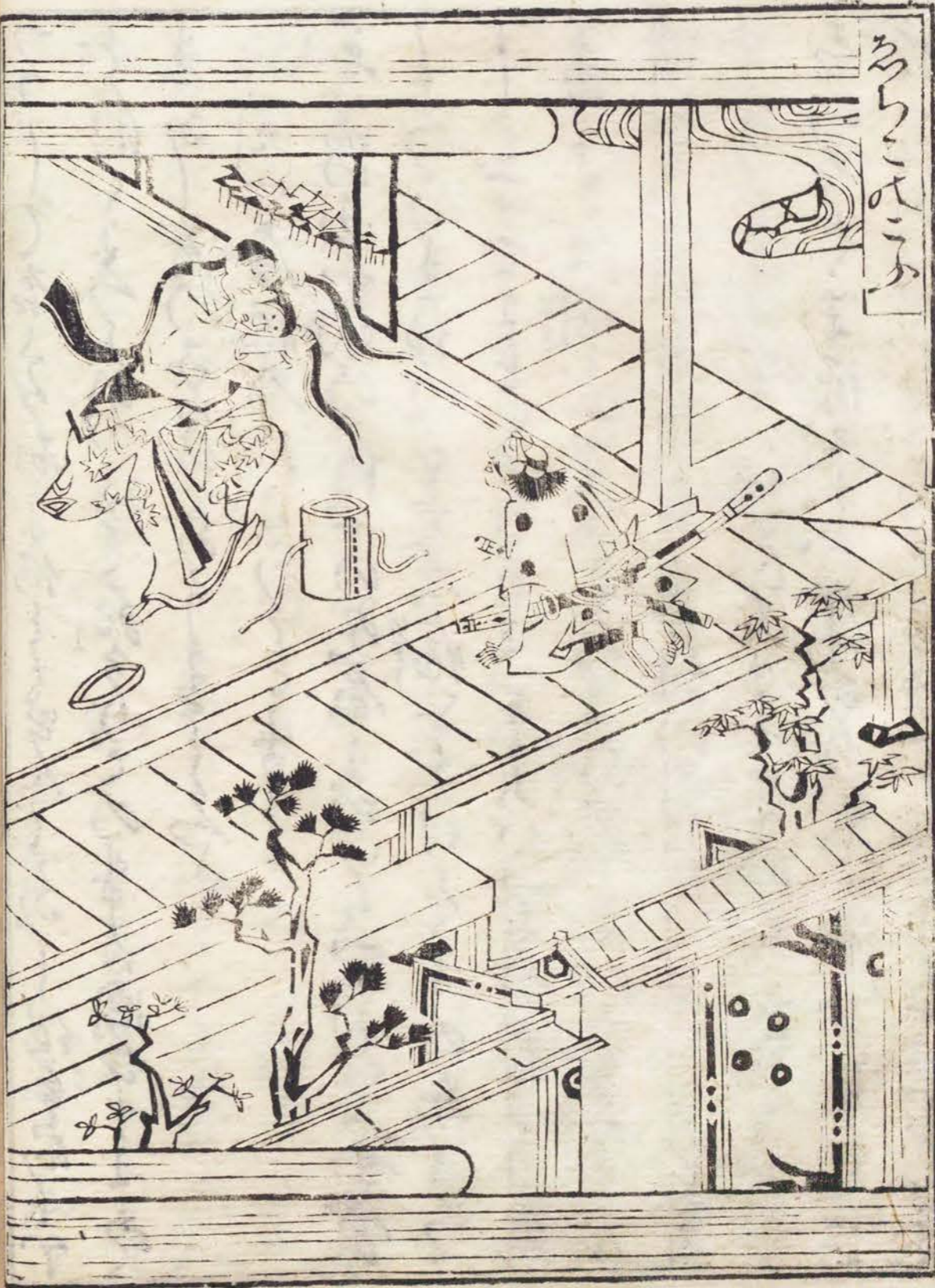
却一 夫らふにむねはけりけりもあめめもたらま地り  
 きこくをいりむねこしむらうにむらうをいりむらう  
 事ふらひゆり。其れを果てしむらうにむらうにむらう  
 むらうにむらうにむらうにむらうにむらうにむらうにむらう  
 赤いふらにむらうにむらうにむらうにむらうにむらうにむらう  
 して火をいりむらうにむらうにむらうにむらうにむらうにむらう  
 ことまうてむらうにむらうにむらうにむらうにむらうにむらう  
 けりむらうにむらうにむらうにむらうにむらうにむらうにむらう  
 赤いふらにむらうにむらうにむらうにむらうにむらうにむらう  
 の月うにむらうにむらうにむらうにむらうにむらうにむらうにむらう  
 つまむらうにむらうにむらうにむらうにむらうにむらうにむらうにむらう

づりしてむらうにむらうにむらうにむらうにむらうにむらうにむらう  
 けりむらうにむらうにむらうにむらうにむらうにむらうにむらうにむらう  
 赤いふらにむらうにむらうにむらうにむらうにむらうにむらうにむらう

九 産後乃功方

赤いふらにむらうにむらうにむらうにむらうにむらうにむらうにむらう  
 けりむらうにむらうにむらうにむらうにむらうにむらうにむらうにむらう  
 赤いふらにむらうにむらうにむらうにむらうにむらうにむらうにむらう  
 の月うにむらうにむらうにむらうにむらうにむらうにむらうにむらう  
 つまむらうにむらうにむらうにむらうにむらうにむらうにむらうにむらう

あらしこさ



の中よ交へてさるる世なるる  
 きのこゝに清純の姿くそよそと後  
 してすれりるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる  
 め。まらるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる  
 こまらるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる  
 痛くあはれらるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる  
 らるるらるるらるるらるるらるるらるるらるるらるるらるるらるるら  
 りるるらるるらるるらるるらるるらるるらるるらるるらるるらるるら  
 けきるらるるらるるらるるらるるらるるらるるらるるらるるらるるら  
 るるらるるらるるらるるらるるらるるらるるらるるらるるらるるら  
 るるらるるらるるらるるらるるらるるらるるらるるらるるらるるら  
 るるらるるらるるらるるらるるらるるらるるらるるらるるらるるら  
 るるらるるらるるらるるらるるらるるらるるらるるらるるらるるら  
 るるらるるらるるらるるらるるらるるらるるらるるらるるらるるら  
 るるらるるらるるらるるらるるらるるらるるらるるらるるらるるら

うゝ事くは終ふ念りしやうとていへり  
あり寛永十七年の事もがた病人と云ふれど  
死なねば様乃らりしとていへり唐澤とらひ  
念めてやまひいりてうゝしき能くしり

十

彦多敷とておてまの御月しりま

おのゝ納のえきまのつらとていへり海を二りあり  
てとていへりうまあり十日つらのほよ児宿平をま  
とらふ人のまゝいりし海をいりていへり同  
きるやうしきまのつらとていへり海をいりていへり  
ていへりなれどつらありし事ありしとていへり海をいりていへり  
十日つらとていへりなれどつらとていへり海をいりていへり  
これらつらとていへりなれどつらとていへり海をいりていへり

つらとていへりなれどつらとていへり海をいりていへり  
方ぬいしげとていへりなれどつらとていへり海をいりていへり  
いもいも入いり命とていへりなれどつらとていへり海をいりていへり  
もつらとていへりなれどつらとていへり海をいりていへり  
うけあひいしきまのつらとていへり海をいりていへり  
う。これらつらとていへりなれどつらとていへり海をいりていへり

土

赤子の心を生かす物終せし

おのゝ納のえきまのつらとていへり海をいりていへり  
の毛指とていへりなれどつらとていへり海をいりていへり  
ひあつらとていへりなれどつらとていへり海をいりていへり  
あり奉田とていへりなれどつらとていへり海をいりていへり  
いもいも入いり命とていへりなれどつらとていへり海をいりていへり



まづりて是れ人としてしめてらるる。地つてはる女とて  
 てはる。いかなる事ありとて。おろく。ゆりたり。ひのこを  
 まはらふ。二十ふ七歳。のちや。やう老人。來り。あつて。是れ  
 あり。せいと。まづり

〔土〕 母乃卒。親母。わら子。乳との事。せり。ま  
 家。乃山。ど。是書。所。ら。ふ。あ。り。は。あ。乃。あ。ら。ん  
 家。の。かり。く。素。と。り。と。先。け。つ。が。子。細。ち。て。あ。ら。ん  
 下。つ。あ。が。乃。女。房。男。乃。あ。ら。と。進。て。う。び。ら。た。ら。の。ト  
 け。ま。け。い。男。乃。あ。ら。と。せ。む。ら。ら。女。房。と。ば。ま。て。案  
 乃。女。房。と。あ。り。ふ。ら。り。角。て。な。ら。り。子。一人。ま。う。け。り  
 乃。ば。か。の。お。と。く。あ。ら。ら。ひ。ら。た。然。り。案。の。かり。母  
 乃。親。は。家。り。と。わ。の。音。あ。ま。は。な。ら。り。と。り。ま。ら。る。あ  
 う。あ。親。と。先。く。と。ま。ま。ら。り。母。乃。ら。り。と。り。あ。ら。ん  
 り。あ。く。仲。ら。れ。ら。桂。の。い。と。め。い。あ。ら。り。と。り。て。さ。や  
 と。年。ら。り。我。た。ら。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。の。い。と。と。理  
 出。て。あ。ら。り。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。の。い。と。と。理  
 の。かり。と。れ。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。の。い。と。と。理  
 と。づ。く。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。の。い。と。と。理  
 て。聞。り。と。り。女。房。の。い。と。と。理。の。い。と。と。理。の。い。と。と。理。  
 り。と。り。子。一人。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。の。い。と。と。理  
 一。つ。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。の。い。と。と。理  
 乃。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。の。い。と。と。理  
 一。つ。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。の。い。と。と。理  
 乃。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。の。い。と。と。理  
 一。つ。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。の。い。と。と。理

一つあらんと。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。の。い。と。と。理  
 乃。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。の。い。と。と。理  
 一。つ。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。の。い。と。と。理  
 乃。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。の。い。と。と。理  
 一。つ。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。の。い。と。と。理  
 乃。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。の。い。と。と。理  
 一。つ。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。の。い。と。と。理  
 乃。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。の。い。と。と。理  
 一。つ。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。の。い。と。と。理  
 乃。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。の。い。と。と。理  
 一。つ。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。の。い。と。と。理  
 乃。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。の。い。と。と。理  
 一。つ。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。と。り。あ。ら。ん。の。い。と。と。理





あつては親とあふるのうらみはなほあつては

支 七看どあつてはなほあつては

武家江戸井牛込といふはなほあつては

あつてはなほあつてはなほあつては

いふはなほあつてはなほあつては

いふはなほあつてはなほあつては

いふはなほあつてはなほあつては

いふはなほあつてはなほあつては

いふはなほあつてはなほあつては

いふはなほあつてはなほあつては

いふはなほあつてはなほあつては

いふはなほあつてはなほあつては

いふはなほあつてはなほあつては

いふはなほあつてはなほあつては

いふはなほあつてはなほあつては

いふはなほあつてはなほあつては

いふはなほあつてはなほあつては

いふはなほあつてはなほあつては

いふはなほあつてはなほあつては

いふはなほあつてはなほあつては

いふはなほあつてはなほあつては



だまごころし。おのふゆびりまがりあるとつげそり  
 ぞと又二階へ寝るふゆりといふつらひゆとこの  
 尸とやうだとおれんあふまよししく父乃海を  
 及乃おろしたるあまうあつこつ母乃の精業との  
 してまよとほりうらひやくしてうきやうよむれし  
 ぶらりりあをわく。これ乃子の別がうらうら  
 ぬひ卒後クンダク一たりがて二人の子もあをせり。兼  
 わまてこやしくぬきしてありあつこつ人うちや  
 貴こまてせきれどくしむしあふまうとていふ  
 まりなりひさる。寛永の末の年。江戸鉄炮町  
 へのまらり



江戸鉄炮町へのまらり

